

〔翁〕 とうどうたらりたらりら、たらりあがりららりどう

〔地〕 ちりやたらりたらりら、あがりららりどう

〔翁〕 所千代までおはしませ

〔地〕 我らも千秋さふらはう

〔翁〕 鶴と亀との齡にて

〔地〕 幸ひ心にまかせたり

〔千歳〕 なるは瀧の水、なるは瀧の水、日は照るとも

〔地〕 絶えずとうたりありうどうどう

〔千歳〕 君の千歳を経んことは天津乙女の羽衣よ、なるは瀧の水日は照るとも

〔翁〕 総角や爆竹やひろばかりやとんどや、ぎしてゐたれども

〔地〕 まゐらふれんげりやとんどや

〔翁〕 千早振る神のひこさの昔より久しかれとぞ祝ひ

〔地〕 そよやれいちやとんどや

〔翁〕 およそ千年の鶴は

万歳楽とうたうたり、また

万代の池の亀は、甲に三曲を頂いたり

瀧の水れいれいと落ちて夜の月鮮かに浮んだり

渚の砂さくさくとして旦の日の色を弄す

〔翁〕 天下泰平国土安穩の今日の御祈禱なり

あり原やなじよの翁とも

〔地〕 あれはなじよの翁とも、そよやいづくの翁とも

〔翁〕 そよや

〔舞〕 千秋万歳の喜びの舞なれば、ひとさし舞ふ万歳楽

〔地／翁〕 万歳楽、万歳楽

〔三番叟〕 おさへおさへ喜びありや我が此の所より他へはやらじとぞ思ふ

あら目出たや、物に心得たるあどの太夫殿にそと見参申さう

〔アド〕 調度参りて候

〔三番叟〕 誰がお立ちにて候ぞ

〔アド〕 あどと仰せ候ほどに御身あどの為に罷り立ちて候、今日の三番叟千秋万歳と舞うて居そへ色の黒い尉殿

〔三番叟〕 此の色の黒い尉が今日の三番叟千秋万歳所繁盛と舞納めうづる事は何より以て安うざり、まづあどの太夫殿は

元の座敷へおもおもとお直りそへ

〔アド〕 某座敷へ直らうづる事は尉殿の舞よりいと安うそう、御舞なうては直り候まじ

〔三番叟〕 あらやうがましや

〔アド〕 さらば鈴を参らせう

〔三番叟〕 あどの太夫殿に申すべき事の候

〔アド〕 何事にて候ぞ

〔三番叟〕 五月の女房が笠の端を連ね、早苗おつ取つてうちあげて諷うて聞かせ申さう

〔ツレ〕 これんな池の汀に宝御船がつくとんの

艫へにはんな恵比寿大黒、中は毘沙門吉祥天女

〔二上り〕 四海波風静けき君が

御世はかしこき天照る神の、影もくもらず怨敵退散五穀成就民豊か

八百万代も国や栄えん